



いいわき

意和氣の力と心でチャレンジ!
Chance Change Charge Challenge 2018F

由利本荘市立岩城中学校
No. 57
平成31年2月26日

※岩城中学校の学校評価No.1を載せます。今年度を反省し、来年度に生かしていきたいと思えます！

岩城中学校学校評価シート No.1

評価領域

学習指導

重点目標 実践的な指導力を培う研修の充実
「学ぶ喜びを感じ、主体的に学び続ける生徒の育成」

現状

内容(基準)	時期	A	B	C	D	E	評点
3 お子さんは意欲的に、いきいきと学習に取り組んでいると思えますか？	H28-04	13.4	50.7	34.3	1.5	0.0	2.8
	H28-12	9.1	63.6	24.2	1.5	1.5	2.8
	H29-04	14.8	54.3	23.5	6.2	1.2	2.8
	H29-12	11.1	69.8	19.0	0.0	0.0	2.9
	H30-04	4.6	63.1	26.2	3.1	3.1	2.6

(A:とても意欲的 B:比較的意欲的 C:あまり意欲的でない D:全く意欲的でない E:わからない)

諸調査や学校訪問の評価等から、評価されている。また、生徒会学習委員会の活動と連動した家庭学習・学習習慣への取組など、生徒の学習に向かう意識は高まってきている。各種訪問や地域の方々が授業を参観した感想としても、本校の授業づくりへの取組について高い評価を得てきた。しかし、主体的に学び続けるという点においては、本県同様に課題である。また、携帯・スマホ・ゲーム機・音楽再生機等によるネット安全と依存症による家庭学習を含めた諸課題等も山積している。特に近年、小学校から入学してくる生徒に基本的な学習習慣の定着に課題のある生徒の増加が最大の課題である。学習への意欲面で、意欲的でない・わからない(C+D+E評価)と感じている保護者は多い。学んだ結果はもちろんだが、『学び方』を身に付けて、生涯学び続ける力へと発展させていきたい。そのためにも、教育活動全体を通して、『学ぶ喜び』や『学ぶことの大切さ』について深く考えさせ、意欲的に、いきいきと学習に取り組む生徒を目指したい。そして、対話力を身に付け人間的によく生きる「生きる力」を身に付けさせたいと考える。

P
計画

具体的な目標 3：お子さんは意欲的に、いきいきと学習に取り組んでいると思えますか？ A+B評価を80%以上を目指す。(E評価「わからない」を0%を目指す。)

目標達成のための方策

- 各学年の各学級に担任と副担任を配置し、チームで学級力・学年力を高め、さらにはチーム意和氣(全職員で)で学習指導等にあたり、学校力を高める。
- 岩中「学習の流れ」を基本に、確かな学力を身に付ける指導を徹底する。
- 「問い」を発するための多様な言語活動を工夫し、語彙力や質問力・対話力を育成し、感性を磨く。
- 生徒に身に付けさせる力を明確にした、課題提示と発問づくり及び学習過程を工夫する。
- 夢や希望・目標を明確にし、学習への意欲を高め、小学校との関連も図り、計画的なキャリア教育を推進する。
- 「意和氣チャレンジプラン」で小中連携の意識化を図り、生徒・保護者への啓発をする。
- 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を推進し、家庭地域の力と心を双方向的に生かす。

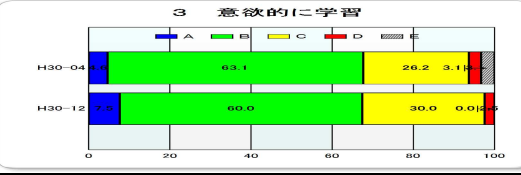
具体的な取組状況

- 今年度は北ブロック公開研究会もあり、研究・研修の日常化を推進し、職員相互の授業参観を行い、チームでも授業改善に向けてお互いに高め合っている。
- 学ぶことや考えさせることと教えるべきことをはっきりさせ、課題提示と発問づくり及び学習過程の工夫について協議し指導に生かしている。
- 基礎的・基本的な知識の定着に向けて「岩中タイム」を有効に活用している。
- 地域連携安心・安全推進事業の指定を受け、関連した学習も含め総合的な学習の時間『LIFE』を充実させ、キャリア教育を推進している。
- 「意和氣チャレンジプラン」を作成し、学区全戸に配布した。小中連携の意識化を図り、保護者にも理解していただき、小学校と連携した9年間の学習習慣を図っている。

D
実践

○学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を推進し、家庭・地域の力と心を生かすために、学校における学習や生活の状況を公開（授業参観、学年主任から週予定、学級担任から学級通信、生徒指導主事から生徒指導だより、養護教諭から保健だより、校長から校報「いわき」）し理解を得ようと努力している。

達成状況	内容(基準)		時期	A	B	C	D	E	評点
	3 お子さんは意欲的に、いきいきと学習に取り組んでいると思いますか？		H30-04	4.6	63.1	26.2	3.1	3.1	2.6
			H30-12	7.5	60.0	30.0	2.5	0.0	2.7



(A:とても意欲的 B:比較的意欲的 C:あまり意欲的でない D:全く意欲的でない E:わからない)
 A + B 評価は67.5%で、目標達成を達成することができなかった。
 E 評価は0.0%で達成できた。

自己評価	(評価)	(根拠)	C 評価
	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業等を参観された方からは、本校の授業づくり・改善への取組、生徒の学習に向かう姿勢等について高い評価を得ることができた。 ○北ブロックの公開授業研究会もあり、全職員によるチームの力で対応し、研究会を成功裏に終えることができた。「学ぶ喜びを感じ、主体的に学び続ける生徒の育成」の研究テーマの下、授業改善に向けた取組や研修を積極的に行ってきた結果、諸調査や学校訪問の評価等において成果が表れた部分も多くある。 ◆昨年に引き続き、学習内容の定着（特に算数と理科）及び学習習慣にも課題があり、生徒の特質にも変化が見られ、主体的に学び続けるという点においては満足のいく段階までは達することができなかった。生徒一人一人の特質をみて寄り添いながら、教育活動全体を通して『学ぶ喜び』や『学ぶことの大切さ』について、深く考えることができるようにしていきたい。 	

評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	<ul style="list-style-type: none"> ○目標には届かなかったが、E評価が0%だったことは高く評価できるものと思う。 ○「LIFE」総合的な学習として生徒自ら課題を設定して解決する力が身に付いている。自分の将来を夢描き実現するための行程を調べて発表する姿は大変すばらしいと思った。市のC・S連絡会議で県立大教授の助言で、地域の声が生かされているかということと現在行っている活動が将来子ども達のためになっているかということをお問われましたが、真に岩城中はこれに相当するものだと思う。 ○先生方におかれましては引き続き、生徒との対話に重点を置いて平均値を上げていただきたい。 ○学校見学会に参加したときは、子どもさん達は生き生きと勉強に取り組んでいたと思います。一人一人が元気で積極的に手をあげて大変よい感じでした。これからも頑張ってください。 ○目標に向かって努力していくこと、少しずつでも良くなっているの、これからも子ども達のことをよろしくお願ひします。 ○全職員協力して学習・生活指導にあたり、効果を発揮している。 ○「意気チャレンジプラン」を全戸配布して、学校・保護者・地域の連携ができている。また、小中連携もできている。 ○副担任制など先生達の努力によって子ども達の学習成果があがっているのを嬉しく思います。これからもよろしくお願ひします。 ○子ども達の「やる気」を応援して、その子その子の夢や希望…目標が達成できるように、学校で指導していると思う。 ○A+Bで目標未達成なのは残念ですが、学力自体は上がっており努力はみえると思う。 ○達成状況をみると、学習に対しての生徒の意識に加え、親の関心も増えた結果があらわれていると感じた。 ○主体的に学び続けるという点においては満足のいく段階までは達することができなかったと自己評価されているが、諸調査や学校訪問等で授業づくり・改善への取組、生徒の学習に向かう姿勢等について高い評価を得ていること、また、今年度から各学級に担任と副担任を配置し、その成果が現れてきていることを糧に、今後も教職員が一丸となりチーム力をもって、学習意欲を導き、課題を見つけ、そして小学校との更なる連携と情報を共有しながら生徒一人ひとりに寄り添った指導を継続することによりさらに向上すると思われる。 ○学校側、職員の熱量はしっかり伝わってくる。生徒の特質の変化や保護者の価値観の多様化等もあり評価が下がることもあるのではないかと思います。しかし数字で評価されることは仕方のないことなのだと思うのでこれからも主体的に学ぶ生徒の育成に向けてチーム意気と意気と頑張ってください。 	C 評価
	<p>学校運営協議会委員の方の評価で、一番多かった評価です。(A A B A A B A B B B A E)</p>		

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の取組による生徒の学ぶ姿勢と成果について一定の評価は得られた。来年度は具体的にもっと目標を絞って取り組んでいけたらと思う。 ○小学校における学習内容の理解に問題がある教科について、小学校との連携を更に深め、指導方法の工夫改善を行い、小学校-中学校の9年間を見通し、学校本来の機能が発揮できる実行力のある小中連携に取り組んでいかなければならないと考える。 	A 実践
-----------------------	---	------